

インテルサット仕様DCME

竹本光宏*
起 ゆりか**
玄長喜尋*

要 旨

衛星通信及び海底ケーブル等のデジタル回線では、回線効率を上げるための有効な手段として、1980年代後半ごろから、無音圧縮技術(DSI)と高能率符号化技術であるADPC(Adaptive Differential Pulse Code Modulation)技術を併せ持ったDCME(Digital Circuit Multiplication Equipment)が導入されてきた。従来のDCMEは、接続互換性のない、異なるメーカーの装置との信号伝送ができなかった。

近年、通信システムのオープンネットワーク化が進む中、インテルサット(国際電気通信衛星機構)でDCMEの標準

化仕様(IESS-501Rev.3)が作成され、三菱電機(以下“当社”という。)を含め、3社が同標準仕様に基づいてDCMEを開発した。

1994年5月には、当社のDCME“DX-5000”と他社のDCMEを使用したフィールドでの評価試験も終わり、現在、800台ほどのインテルサット仕様のDCMEがユーザーへ出荷されている。

インテルサット仕様のDCMEへのユーザーの関心は高く、引き続き活発な商談が展開されることを期待している。



インテルサット仕様DCMEの外観

2,100mmの架にOWパネル(打合せ回線通話装置)とSWOパネル(冗長システム切換装置)を各1台と、DCME“DX-5000”を2台(1台はバックアップ用予備装置)実装した場合の外観である。